



平成 19 年 7 月 2 日

各位

会社名 株式会社ディー・ディー・エス
代表者 代表取締役社長 三吉野 健滋
(東証マザーズ・コード 3782)
問合せ先 I R 室長 鈴木 達也
電話番号 052-533-1202
(URL <http://www.dds.co.jp>)

株式会社インテリジェント ウェイブと情報漏洩対策ソリューションで販売提携

指紋認証などバイオメトリクスを始めとした様々なセキュリティ・ソリューションへ事業領域の拡大を続けている株式会社ディー・ディー・エス（本社：愛知県名古屋市、代表取締役社長：三吉野 健滋）は、当社の指紋認証ソリューションと、株式会社インテリジェント ウェイブ（本社：東京都中央区、代表取締役 社長執行役員 山本 祥之、以下インテリジェント ウェイブ）の情報漏洩対策ソフトウェア『CWAT（シーワット）』を組み合わせ、包括的な情報漏洩対策ソリューションの販売を共同で推進していくことといたしました。

背景

顧客名簿流出など情報漏洩事件が後を絶たない今日、企業情報システムにおける情報漏洩対策ソリューションに対するニーズは益々増大しています。

高い機能性・信頼性が特徴である当社の指紋認証による本人認証基盤システムは、後述のように、ユーザー企業から高い評価をいただき、国内シェア No.1 の地位を獲得しています。

一方、大手クレジット会社向けシステムで約7割のシェアを占めている株式会社インテリジェント ウェイブは、金融業界で培った技術をカード不正対策システムや内部情報漏洩対策システムなどセキュリティ技術に活かし、企業情報システムにおける不正操作を防止するソリューションとして情報漏洩対策ソフトウェア「CWAT」を販売。数多くの企業が採用しています。

生体認証と不正操作防止の両製品を同時に採用することで、より強固な情報セキュリティシステムを構築することが可能であり、ユーザーのニーズに的確に対応できると判断し、今回の販売提携契約締結につながりました。

販売提携について

当社は、インテリジェント ウェイブ セキュリティパートナー (IWSP) アライアンスにおいて、プラットフォームパートナー契約を締結いたしました。今後は、当社の指紋認証ソリューションとインテリジェント ウェイブの「CWAT」を組み合わせたソリューションの販売を協力して展開していきます。

また、今後さらに、より製品連携を深めることで、アクセス認証基盤と不正操作防止基盤の連携による高次元のセキュリティソリューションへの昇華を目指した協力を行っていく方針です。

株式会社インテリジェントウェイブ 代表取締役 社長執行役員 山本祥之様のコメント

当社では企業情報システムにおけるユーザの不正操作を防止するソリューション、CWAT を提供しており、数多くの企業ユーザ様に採用いただいております。不正操作を防止することにより、情報漏洩対策のレベルは飛躍的に向上しますが、CWAT の下位レイヤである認証基盤側でなりすましが行なわれるなど、インフラ側の不備によるセキュリティホールが課題となっています。CWAT のユーザ様におかれましてもこうした認証基盤に生体認証を採用され、強固なセキュリティ基盤の構築検討されるケースが増えております。当社では今後 CWAT と共に、DDS 社の生体認証ソリューションをお客様にお薦めすることで、高度なセキュリティソリューションをご提供してまいります。

【株式会社インテリジェント ウェイブについて】

株式会社インテリジェント ウェイブは、カードビジネス事業、システムソリューション事業、セキュリティシステム事業から構成されております。特にカードビジネス事業では、自社開発パッケージによるクレジットネットワークシステム提供で大手クレジット会社の多くを顧客に有しており、金融業界で培った技術はセキュリティ技術に応用され、カード不正対策システムや内部情報漏洩対策システムに活かされています。

金融業界におけるコンサルティング業務、ソフトウェア開発およびネットワーク構築、ハードウェア販売のほか、全業種に向けた新規事業分野への積極的な展開を行っています。

【CWAT について】

株式会社インテリジェント ウェイブが提供する CWAT はネットワークと端末操作を監視し組織内部からの情報漏れを監視する「内部情報漏洩対策」プラットフォーム製品です。

- ・ CWAT では、禁止された行為の阻止だけでなく、疑わしい操作、不審な操作の検知（特異挙動検知）を行い、スコアリングにより操作者のビヘイビア（ふるまい）モデルに応じた操作範囲の制限を加え、未然に情報の流出を阻止することが可能。
- ・ 個人情報のみならず、企業内情報資産（人事情報、財務情報、顧客情報、経営情報 など）を漏洩から「守る」、していないことを「証明する」、未然に犯罪につながる行為を「つきとめる」ことで、セキュリティ監査に対しても十分な支援機能を提供。
- ・ 日本語・英語・中国語（簡体字・繁体字）・ハングル語等の言語に対応し、海外拠点における導入まで視野に入れた対応が可能。

製品ホームページ：<http://www.iwi-security.com/>

ディー・ディー・エスの指紋認証ソリューションの特徴



松本、佐藤、藤吉、梅崎「LPC分析に基づく指紋照合法の評価」電気学会論文誌（2002年5月）より一部転記

確実な本人認証・負担の軽減

パソコンの USB ポートに差込み、OS や業務システムへのログオン時に指紋による個人認証を行います。従来の「ID + パスワード」や IC カードの利用に比べ、「なりすまし」がされにくく、確実な本人認証が可能です。

また、複雑なパスワードの記憶や書きとめの必要がなく、利用者や管理者の負担を軽減できます。

指紋登録率 100%

既存の指紋認証システムにおいては、乾燥や手荒れなどのために指紋が登録できず、認証システムを使用することができない人が 1-3% 程度の割合で発生していました。1000 人規模の組織においては 10-30 人が指紋登録できないこととなり、管理者はそれらの人員に対し例外的な措置を講じざるを得ず、認証システムそのものの有効性を損ない、管理社の負担も増加させてしまう結果となってしまいかねませんでした。

指紋認証ソリューション「UBF」では、名古屋工業大学の梅崎教授との産学連携により開発した周波数解析法を採用。これによって従来では考えられなかった 100% の指紋登録を実現しました。

高いセキュリティを保持

万一登録データが盗難された場合も、データには指紋の画像ではなく特徴情報が登録されているため、その特徴情報からの指紋画像の再生は原理上不可能であり、高いセキュリティを保持できます。

メモリ機能により指紋情報を内蔵

指紋登録や照合を行うアプリケーションを本体のメモリに内蔵し、利用者の指紋情報も内蔵メモリに保管されるため、個人の指紋情報を本人が管理できます。指紋という極めて個人的な情報を会社や他人に一括管理されることへの抵抗感を払拭できます

今後の展開

昨年、当社指紋認証ユニットは、市場調査レポート「2006 ネットワークセキュリティビジネス調査総覧」(株式会社富士キメラ総研)において、指紋認証製品における国内シェア第 1 位であるとの報告をいただきました。

こうした当社製品の優位性を活かし、今回のように他社との連携・提携を積極的に展開してまいります。また、「指紋認証」に限定することなく、あらゆるセキュリティ・ソリューション分野にも活動範囲を拡大し、リーディングカンパニーを目指してまいります。

なお、今期の業績に与える影響は、現状では未定であり、今後明らかになり次第、随時発表してまいります。

【株式会社ディー・ディー・エスについて】

DDS は、指紋認証をはじめとする生体認証テクノロジーのリーディングカンパニーとして、確かなセキュリティシステムへの社会的ニーズに応え、設立以来、産学連携による技術移転を積極的に推進し、先進技術と市場ニーズを結ぶビジネスモデルの構築に注力してまいりました。

現在、当社が特に力を注いでいるのは、ユビキタス社会における次の 5 つの分野です。

- (1) 指紋認証をはじめとするセキュリティ
- (2) 通信カラオケ機器などのアミューズメント
- (3) 携帯電話などのモバイル
- (4) 自動車の情報化を担う ITS

(5) 情報技術の集大成としてのロボット

大学など研究機関からの技術移転を実現し、眠っている技術シーズと市場ニーズを結びつけるビジョンをもとに、誰でもいつでもどこでも高品位なデジタルコミュニケーションが可能なユビキタス社会の実現に向けて、大きな付加価値を創造してまいります。

以 上